産経新聞　<第三種郵便物認可>

Life 社会保障

資格取得…将来の武器に

介護職場で学生の就学支援

医療や介護の専門人材が不足するなか、経済的な理由で進学が難しい若者が学費や給付金の提供を受けて、医療や介護の職場で働くプログラムが登場している。高齢者のニーズが爆発的に増える時代を前に、介護現場で働いた経験を社会に出たときの武器にしようとの試みが新鮮だ。（佐藤好美）

ホーム勤務後に通学

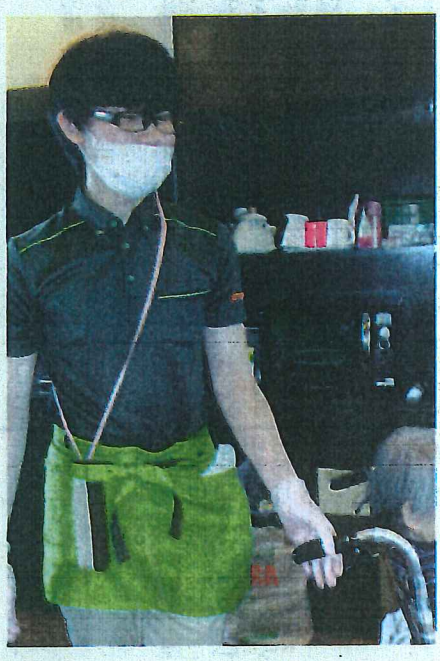
「ちょっと手伝ってもらえますか？」

午前8時、東京都文京区の有料老人ホーム「アズハイム文京白山」。介護職として働く東京電機大2年の佐々木零史さん(19)が、他のスタッフに声をかけた。高齢女性の排泄（はいせつ）介助をするためだ。

「（転倒防止のため）必ず2人で介助するように言われています」。佐々木さんは大学入学と同時に介護職として働き始めた。約2年が経過した今では、入居者一人一人の状態を把握。この高齢女性については「はっきり尿意がある方なので、（オムツではなく）トイレで介助をしたい」と、違いに応じた対応をしている。

佐々木さんの一日は早い。午前4時に起き、約1時間をかけてホームに出勤。6時から入居者の洗顔や着替え、排泄介助などの「モーニングケア」にあたる。その後、食堂に誘導して食事介助。部屋に誘導して再び排泄介助。午前9時に終了し、大学に通う。時給1500円で週6日働き、学費を自力で賄い、貯金もする。

学生と介護職。「二足のわらじ」を提案したのは、介護現場で働く奨学金プログラム「ミライ塾」を運営する「介護コネクション」（東京都）の奥平幹也代表だ。同社は介護の人材紹介などを行う会社「エス・エム・エス」（同）と協力し、介護事業所と学生をマッチング。学生が介護事業所から学費の貸与を受けて、賃金で返済する「ミライ塾」の仕組みを平成27年度にスタートさせた。



「始める前はきつくて低賃金の仕事だと思っていたが、得るものが多い」と話す佐々木零史さん＝東京都文京区の有料老人ホーム「アズハイム文京白山」

学生と「伴走」

大学や専門学校に通いたい若者に学費を貸与する制度は一般にあるが、最初に必要となる入学金の借り入れは難しい。また、多額の借金を抱えて社会人生活を始めるリスクもある。奥平代表は自身が新聞奨学生として大学を卒業した経験から、「経済的な理由で進学できない若者の支援と介護職不足を、同時に解決できないかと考えた」という。

ミライ塾は、事前に働き方と学費の支払い計画を作成。介護事業所が、学生には進学前に学費を貸与し、ミライ塾には学生を継続してサポートする費用を払う。奥平代表自身が両立に苦労した経験から、ミライ塾は学生の「伴走者」として、仕事の負担や単位取得に目配りし、悩みを聞いたり、励ましたりする役割も果たしていく。

受け入れ先に手を挙げるのは現在、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など約10法人。人手不足の〝埋め合わせ〟にならないよう、ミライ塾は専門職を育てる環境が整った職場を選び、学生に基礎的資格にあたる「初任者研修」を修了させてから仕事を始める。また、その先の資格取得も薦める。「今後は超高齢社会。卒業後にメーカーやサービス業に就職しても、介護職のキャリアは生きる。高齢者向けの商品の開発にも役立つはず」と奥平代表は訴える。

両立が刺激に

佐々木さんはエンジニア志望。だが、この春には、初任者研修の次のステップにあたる「実務者研修」を受ける。来年には、3年の実務経験が必要な介護の上級資格「介護福祉士」を取得予定だ。

佐々木さんは「現場だから見えるものもたくさんある。将来は、認知症の人の行動を察知するセンサーを開発するなど情報分野と介護をからめた仕事をしたい」と話す。

佐々木さんを受け入れた有料ホームを運営する「アズパートナーズ」の可知雅子総務人事チーム・マネジャーは「学業と仕事を両立する佐々木さんの姿は職場の若者に刺激になり、いい影響を生んでいる。奥平代表が学生と頻繁に連絡を取り、それが本人のやる気にもつながっている」と評価する。同社には、ミライ塾を通して働く女子学生もいる。ホテル業界就職を目指し、やはり介護の資格取得も検討しているという。

課題は実績の蓄積。ミライ塾全体で現在6人が働いており、来年度はさらに7人が働き始める予定だ。